

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	宜野湾市児童発達支援事業所 愛育園			
○保護者評価実施期間		令和7年4月16日	～	令和7年4月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数)	15名
○従業者評価実施期間		令和7年4月16日	～	令和7年4月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○訪問先施設評価実施期間		令和7年3月3日	～	令和7年3月26日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	20名	(回答数)	20名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月14日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・未就学児の様子を知っている為、小学校への移行支援が丁寧に行える	・就学前までの関りと成長について先生に伝えたり、うまくいった関りを助言している。	・移行のタイミングで課題における場面での相違や工夫の詳細を再確認する。 ・手先の感覚や言語面など個別で評価し、家庭で取り組めそうな内容をアドバイスする。
2	・親子通園で保護者との関係が築けている為、保護者と連携・協力を持ちやすい。	・家庭での困り感、保護者の思いを考慮して先生と共有したり、保護者も家庭で取り組む協力体制へとつないでいる。 ・訪問のみではなく、児童発達支援での活動にも参加し、小集団での対象児の様子を把握する。	・お互いの思いをうまくつなげていき、学校と保護者の視点の共有や一貫した対応方法へつなげる。
3	・S T、O Tといった専門職が訪問に関わり、保育士、S T、O Tと様々な視点で情報共有している。	・訪問後に対象児の様子を共有し、専門的な視点で評価、助言を行っている。	・評価をするタイミングを作り、客観的かつ課題の対応が分かりやすい支援方法を広げる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問員が兼務の為、訪問回数を増やすことが難しい。	・訪問員の勤務体制	・他事業所との連携、調整
2	・訪問が午前中のみしかいけない。	・サービス提供時間が午前中に限定されている。	・サービス提供時間の変更を検討していく。